

パンソリについて

○概要

パンソリは長編の物語を歌と動作で演出する韓国の古典芸能の一つ。現在韓国に伝わっている朝鮮民族の代表的な語り物です。鼓手(コス)が叩く太鼓(プク)の^{チャンダン}長短※1に合わせて、一人の歌い手(ソリクン)が歌(チャン)、台詞(アニリ)、身振り・所作(ノルムセ)を織り交ぜながら演奏します。

パンソリとは、パン(広場)とソリ(声や音の総称)の合成語です。このことからパンソリは、「多くの聴衆が集まった場で演奏される歌」という意味でもあります。韓国の時代的情緒をあらわす伝統芸術で、人生の喜怒哀楽を音楽と調和させつつ表現し、聴衆も参加する※2という点でその価値が高く評価され、2003年に世界無形文化遺産に指定されました。

※1：楽曲が持つ固有のリズム形を「^{チャンダン}長短」と言います。

※2：パンソリの場合、鼓手や聴衆が合いの手を入れます。このことを「チュイムセ」と言います。

○歴史（成り立ち）

今までに発見されたパンソリ最古の文献は、1754年に柳振漢が漢詩で訳した「春香歌」の内容を漢詩で訳したものです。このことから、パンソリは少なくとも^{スグチョン}肅宗(在位1674年～1720年)以前に発生したものと推測されます。しかし、その起源に関しては諸説あります。

○韓国（パンソリ）の音楽的特徴

「アリラン」や「トラジ」などの民謡で代表されるように、朝鮮半島のリズムは3拍子系統のものが多く、また、1拍の中も3分割され、強弱アクセントの明確な⁶/₄拍子や¹²/₈拍子などの拍節法を基本とする^{チャンダン}長短で構成されることが多いです。使用される音階は5音音階が中心ですが、地方によっても異なる音階(唱調)^{チャンジョ}が使われます。

○演唱の様式

パンソリは、語り方によって『アニリ』『チャン』『トソプ』の3種類に分けることができます。

①アニリ

太鼓の伴奏がない語りの部分。物語の展開を述べたり、状況・場面を説明したり、登場人物の対話の部分であったりします。比較的短いものです。⇒ 義太夫節に置き換えると〔詞(ことば)〕

②チャン

太鼓の伴奏があって、その曲節にのせて演唱する部分。⇒ 義太夫節に置き換えると〔節(ふし)〕に近い

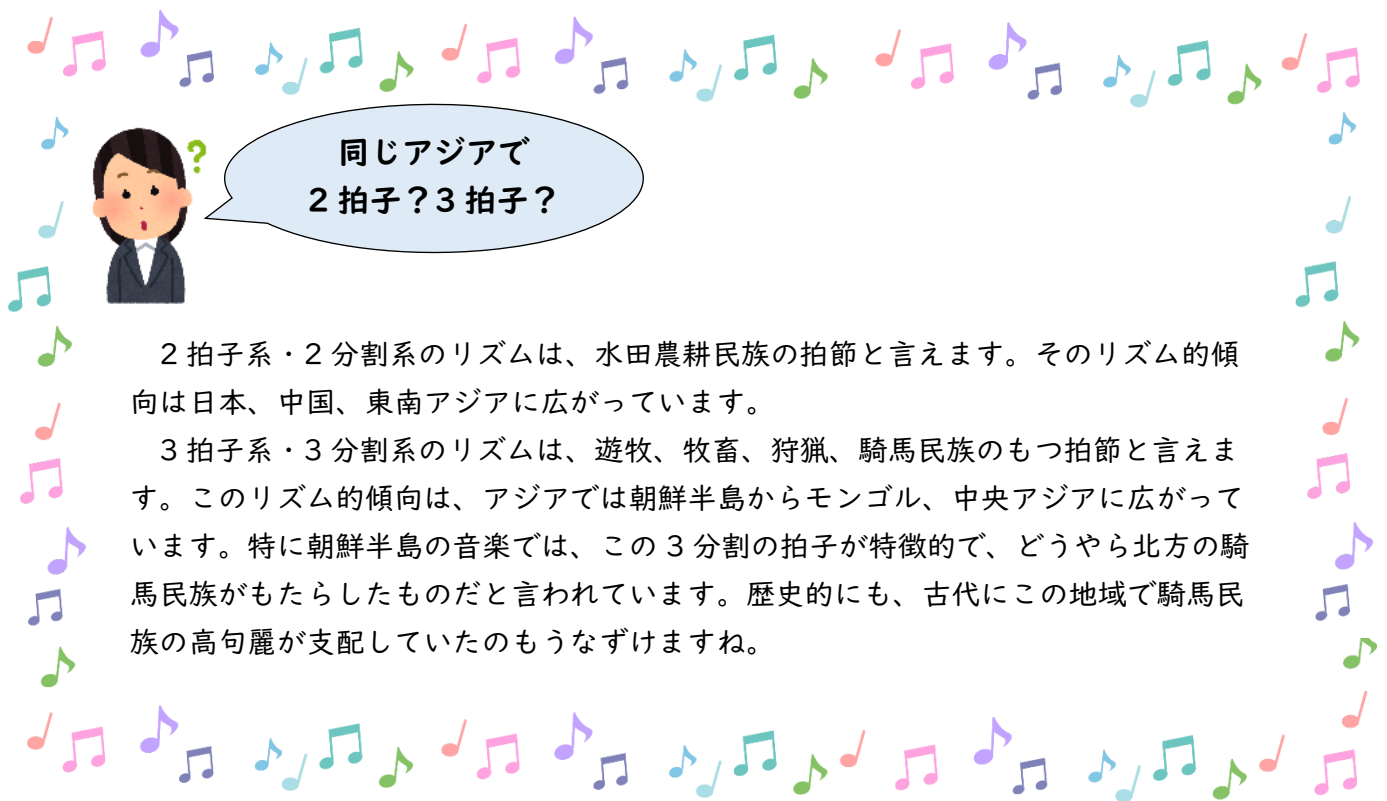
③トソプ

アニリとチャンの中間形態といえる部分。アニリの終わりから始まり、次のチャンへとつなぐ、太鼓の伴奏がない語り部分をトソプと呼んでいます。



○長短（チャンダン）について

韓国の音楽の特徴として、ダイナミックで躍動的なリズム感があげられます。このようなリズム感は、リズムの基本単位である 1 拍を、長い部分と短い部分とを、ほぼ 2 対 1 に分割することによってつくられています。場合によっては短いほうが先で、1 対 2 という長さの分割になっていることもあります。これらの基本単位の組み合わせによって、^{チャンダン}長短とよぶリズム型が構成されています。



2 拍子系・2 分割系のリズムは、水田農耕民族の拍節と言えます。そのリズム的傾向は日本、中国、東南アジアに広がっています。

3 拍子系・3 分割系のリズムは、遊牧、牧畜、狩猟、騎馬民族のもつ拍節と言えます。このリズム的傾向は、アジアでは朝鮮半島からモンゴル、中央アジアに広がっています。特に朝鮮半島の音楽では、この 3 分割の拍子が特徴的で、どうやら北方の騎馬民族がもたらしたものだと言われています。歴史的にも、古代にこの地域で騎馬民族の高句麗が支配していたのうなずけますね。

【参考文献】

- ・ 藤井知昭、水野信男、山口修、櫻井哲男、塚田健一編 『民族音楽概論』 東京書籍（1992）
- ・ 下中弘編 『音楽大事典』 平凡社（1983）
- ・ 藤井知昭監修 『音と映像による世界民族音楽大系レーザーディスク版解説書』 日本ビクター（1995）
- ・ 島崎篤子、加藤富美子著 『授業のための日本の音楽・世界の音楽』 音楽之友社（1999）
- ・ 千二斗著 『韓国のパンソリと日本の語り物』 同志社国文学第 52 号（2000）
- ・ 邊恩田著 『韓国のパンソリー語りの様式と語り手』 口承文芸研究第 29 号（2006）
- ・ 垣内幸夫 『東アジアの語り物音楽研究－義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと－』 音楽教育学第 42 巻 1 号（2012）

【視聴覚資料】

〔C D〕令和 3 年度～ 教育芸術社 鑑賞用 CD 中学生の音楽 2・3 上②（DTC-3339/40）

〔DVD〕令和 3 年度改訂版 教育芸術社 教科書「中学生の音楽」準拠

『中学生の音楽』 第 8 巻 2・3 年上下共通（NBS-828）

〔C D〕『パンソリ／韓国語り物音楽と南道系の器楽』（WPCS-5203）

〔L D〕『音と映像による世界民族音楽大系Ⅰ』東アジアⅠ 編集：平凡社 発行：日本ビクター株式会社

※群馬県総合教育センター所有